

第 1 回小 WG 以降の検討経緯

1. 検討経緯

- ・ 第 1 回小 WG の議論を踏まえ、ヒートアイランド対策等の観点から有効かつ実現可能な実証方法を検討するため、ベンダーからの委員を中心にヒアリングを実施した。以下にヒアリング結果の概略を示す。

■ 実証において何を測定・評価すべきか

- 機器からの排熱量の測定は難しく、実証における評価対象を電力消費効率に絞るべきだとの意見をいただいた。また、実証内容に空調が関係する技術の実証も複雑となり難しいとの意見をいただいた。

■ 電力消費効率の測定方法に関して

- 開発中、あるいは各ベンダーが実際に使用している電力消費効率の測定方法や評価指標に関する情報をいただいた。また、ベンダーから見た電力消費効率測定の意義や、望まれる方向性に関して説明をいただいた。
- グリーン化技術を効果的に評価するためには、従来機器（1 世代前の機器）と実証対象機器との性能向上率を測定することが有効だとの意見をいただいた。

■ 実証対象に関して

- 各ベンダーの IT 機器等グリーン化技術や製品に関する情報をいただいた。
- 今年度に検討する実証対象は、既存の電力消費効率の測定ツールや評価指標の適用が可能である機器に絞るべきだとの意見をいただいた。また、実証すべき性能が、システムの組み方によって変化する機器の実証は難しいとの意見をいただいた。

2. 検討内容

- ・ 第 1 回小 WG の議論を踏まえ、ネットワーク機器、クライアント PC についても実証単位として情報を整理した。
- ・ また、改めてヒートアイランド対策技術等の効果、フィージビリティを踏まえた実証方法の検討、実証対象技術の検討を行った。検討に当たっては、上述のヒアリングにおける意見を参考とさせていただいた。